

# カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成29年3月6日
主管学校名	宮城教育大学附属幼稚園
PTA会長名	芳賀 早織

実施概要	主管校	宮城教育大学附属幼稚園
	交流校	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	宮城教育大学附属特別支援学校の生徒と園児の交流会
	実施日時	平成29年2月21日(火)
	実施場所	宮城教育大学附属幼稚園
	実施目的	特別支援学校との交流活動を通して、特別支援学校の理解を深める。
	実施内容	12月に特別支援学校に依頼した卒園記念品の贈呈と交流
	実施方法	特別支援学校高等部生徒が記念品を作成し贈呈する。その後、レクリエーションなどで触れ合う。
参加人数	宮城教育大学附属幼稚園年長児 60名 特別支援学校高等部生徒 26名	

報告事項	内容	12月7日(水)に卒園記念品の製作を依頼し、2月21日(火)に受け渡しの交流会を実施しました。高等部の生徒さんと園児が向かい合う形で座り、代表の園児による「始めの言葉」の後、幼稚園の園歌「おひさまいっぱい」を合唱し、好きな遊びを紹介する卒園発表会での一部「こま」「なわとび」「ダンス」の3つのグループの技や踊りを披露しました。その後、高等部の生徒さんたちの司会進行で、電子黒板を活用して卒園記念品の「ペン立てフォトフレーム」の工程を、スライド写真を用いて説明していただきました。それから、園児と高等部の生徒さんたちは、それぞれの班に分かれ輪になって座り、一人一人記念品の受け渡しが行われました。受け渡し終了後は、自由な遊びの時間があり好きな遊びを通じて交流を深めました。
	結果	12月7日(水)に園児達が、附属特別支援学校を訪問した際、「ペン立てフォトフレーム」のサンプルを見せていただきながら、「ハート」か「星」の模様を直接伝えていました。2月21日(火)交流会で、高等部生徒さんから受け渡された「ペン立てフォトフレーム」には、フェルトで作られたイニシャルと模様、FUZOKUの刻印が入ったキーホルダーが付いていました。そのほか、フォトフレームには、12月に訪問した際に撮影した写真が入っていて園児達は、お友達同士でマークやイニシャル、写真を見せ合い大変喜んでいました。また、高等部の生徒さんたちは、園児たちの発表を鑑賞するとき、記念品を贈呈するとき、笑顔でとても嬉しそうでした。自由な遊びの時間には、園児達が積極的に高等部の生徒さん達に声をかけ、仲良く楽しそうに遊び自然に交流していました。
	所感	12月と2月の2回の交流活動を通して、園児達は、高等部の生徒さんに対し、卒園記念品を製作し、一緒に遊んでくれたことへの感謝の気持ちを持つことができたようでした。また、高等部の生徒さんは記念品を製作し届けることにより、喜びと達成感を感じているようでした。お互いを尊重する気持ちを持つことができたことを嬉しく感じております。今年度もカンガルーシップ助成金をいただき、良い学びの機会をいただきまして感謝しております。本当にありがとうございました。

添付書類	実施報告書掲載可
------	----------

# カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成29年3月6日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校 宮城教育大学附属幼稚園
学年	高等部 年長



活動に参加しての感想

## カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成29年3月6日
学校名	宮城教育大学附属幼稚園
学年	高等部 年長

### 生徒の声

- ・お話を聞いてくれて嬉しかった。
- ・喜んでくれて嬉しかった。
- ・説明するのに緊張した。
- ・シールのお手伝いを頑張って良かった。
- ・記念品は家に飾って活用してほしい。
- ・ダンスが可愛くて、すごいと思った。
- ・今度は、一緒にダンスを踊りたい。
- ・子ども達が可愛かった。
- ・外は寒かったけど、一緒に遊んで楽しかった。
- ・一緒に遊んでいたら、「おかあさんといっしょ」のお兄さんになったようだった。

### 園児の声

- ・人にはそれぞれ得意なことがあると思った。
- ・大切に使います。
- ・マークとイニシャルが入っていて嬉しい。
- ・星がついていて嬉しい。
- ・自分が選んだマークが入っていてよかった。
- ・自分のために作ってくれて嬉しかった。
- ・机の上に飾ります。
- ・緊張しました。
- ・お兄さんお姉さん達は凄いと思った。
- ・一緒に遊んで楽しかった。



## カンガルーシップ活動

# 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成29年3月6日

学校名 宮城教育大学附属幼稚園

●園児の進行のもと始まった交流会。はじめは皆それぞれに緊張の面持ちでした。先にこま、縄跳び、ダンス、それぞれの習得した技を披露した園児達。それをしっかり見て、感嘆の声と温かい拍手を送ってくれた特別支援学校高等部の生徒さん達。その生徒さん達の反応に、席に戻る園児達の顔が自身と誇らしさに溢れ、とても立派に見えました。続いて高等部の生徒さん達は、記念品「ペン立てフォトフレーム」の製作過程を、画像を用いて説明してくれました。それを園児達は一生懸命に見聞きしていたようです。その後の記念品受け渡しでグループとなり円陣を組み、いよいよ間近の交流開始。ひとつひとつ、きちんと名前を呼んで手渡す生徒さん。しっかり「ありがとう」を言って受け取ることができた園児。袋から取り出された記念品は、FUZOKUの刻印が素晴らしいキーホルダーも付いていました。ペン立てには園児のイニシャルが飾られ、フォトフレームには先に特別支援学校を訪問した際の園児達の写真が入っていました。特別感いっぱい丁寧な作品に園児達の目がキラキラ。とても嬉しそうでした。それを見つめながら笑顔の生徒さん達は、誇らし気で満足感いっぱいのような様子でした。記念品受け渡しの後は、園児達に優しく同調して一緒に遊んでくれた生徒さん達。やさしさが伝わってきました。園児達にとっても生徒さん達にとっても、とても大事な経験ができたと思います。今日のことはずっと忘れて欲しくないなとしみじみ感じました。何の壁も感じさせることなく、それぞれに相手を理解し、そしてその気持ちをしっかりと受け止めることができていた、とても微笑ましく意義のある交流会で大変感銘を受けました。

●この度、初めて交流会に参加する機会を頂き、何日も前から、園児たちと生徒さんが、どのような関わり方をするのか楽しみにしておりました。生徒さんが製作過程を、電子黒板で説明した際、園児たちが分かりやすい平仮名と片仮名、写真を取り入れてくださったため、集中してお話を伺っている様子に感心致しました。後の交流場面で「さっき、あれ（電子黒板）で作っていたところは、ここ（フォトフレームの一部）ですか？」と園児が尋ねると「そうだよ。ここはね・・・。」と生徒さんが園児と視線が合うよう、しゃがんで答えている姿が印象的でした。園児たちが、フォトフレームを受け取った時の笑顔と「ありがとうございます。」という言葉。逆に、生徒さんたちが手渡す時の、真剣な表情と、安堵した様子。どちらも一生懸命で「卒園記念品」をきっかけに、年齢も環境も飛び越えた素敵な出会いになりました。一緒に遊ぶ際には、園児にせがまれ吹雪の園庭でサッカーや縄跳びをしたり、腰をかがめて室内で手を繋いでくれたり・・・沢山の優しい場面に遭遇しました。短時間の交流会ですが「インクルーシブ教育」の生きた授業、生身の体験として、有意義な会だということを感じました。参加前に抱いていた「楽しみ」という気持ちではなく、附属校園ならではの貴重な機会だということに改めて気づき、更には、その場に自分も参加出来たことに、大変感謝いたします。園児としゃがんで会話をしたり、腰をかがめて手を繋いだり、分かりやすく製作過程の説明をしたり・・・生徒さんはわざわざ、そのような気遣いをしていた訳では無く、無意識で行動していました。園児もお礼を口にしたり、説明を聞く場面と遊ぶ場面での、場面の切り替えが身についておりました。どちらも、相手を思い、自然と出た行動です。大人になってから、机上の学習や講演会で「インクルーシブ教育」や「インクルーシブ社会」を意識したり、学習することも大切です。一方、小さい頃から、当たり前、自然な形でそれらが身についていることも重要です。だからこそ、この交流会のような貴重な体験を継続していきたいと思いました。このような貴重な会に参加させて頂きまして、どうもありがとうございました。

●雪が降るととても寒い日でしたが、心が温かくなる交流会でした。園児の「始めの言葉」から始まり、「お日さまいっぱい」を元気よく歌い、高等部の生徒さん達は、真剣に聞いてくれました。幼稚園の紹介では、こま回しの「かつおの一本釣り」や「つばめ返し」などの難しい技の披露があり、成功した際には歓声が上がりました。次は、縄跳びチームの「あや跳び」「後ろ跳び」「ケンケン跳び」大縄跳びの「八の字跳び」の披露があり、見ている園児や高等部の生徒さん達から「頑張れ」の声が出ていました。最後のダンスチームは、キラキラのポンポンを持って「アロハ・エ・コモ・マイ」と「小さな世界」の踊りを披露しました。園児も高等部の生徒さん達も先生方も一緒に手拍子をしてダンスを応援をしました。遊びの披露をした園児はもちろんですが、遊びの紹介をした園児もとても一生懸命で上手でした。遊びの紹介の次は、高等部の生徒さん達が卒園記念品の「ペン立てフォトフレーム」が出来るまでの工程をスライドで見せてくれました。曲がらないように、丁寧に、大切に作ったことを園児に教えてくれました。高等部の生徒さん達と園児が班に分かれて輪になって座り、園児一人一人の名前を呼んで記念品を渡してくれました。自分のイニシャルと、ハートや星のマークが入った記念品を見た園児のとても嬉しそうな顔が印象的でした。自由遊びの時間には、お兄さんの手を引いて外へ出て雪の中でサッカーをしたり、お兄さんに大縄を回してもらって縄跳びをしたり、お姉さんにポンポンを渡して一緒に踊る姿も見られました。短い時間でしたが、とても仲良く楽しく遊んでいました。帰りは「さようなら」の挨拶をした後も、名残惜しそうに「バイバイ」と言いながら高等部の生徒さんにタッチしに行く園児もいました。園児と高等部の生徒さんの笑顔があふれる交流会でした。